

Instructor Training Program

# NEWS LETTER

講師育成事業ニュースレター 2015

Vol.1

March 2015

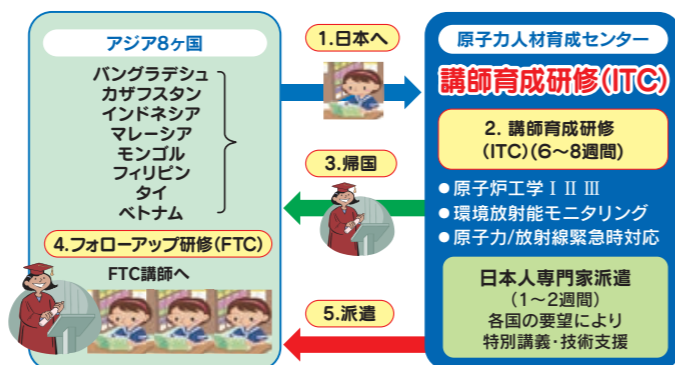


アジア各国で講師として活躍する過去研修生

## 講師育成事業(Instructor Training Program, ITP)の概要

本事業は、原子力分野における講師をアジア地域で育成することを目的として、1996年にインドネシアとタイを対象として開始され、現在の対象国は11か国です。本事業は、講師育成研修コース(ITC)、フォローアップ研修コース(FTC)、原子力技術セミナーの3つの主要な活動で構成されています。ITCは、対象国から研修生(講師候補者)を長期間日本に招聘し、講義、実習、施設訪問等を通じて講師となるように育成する活動です。FTCは、既研修生が自国において講師として研修を実施する際に専門家を派遣し、カリキュラムの決定、講義の方法などの研修内容について現地指導する活動です。ITCとFTCは右図に示すような一連の活動として実施されています。原子力技術セミナーは、対象国から研修生

(原子力関係者)を短期間日本に招聘し、講義や施設訪問等によって知識の伝達・普及を目指す活動です。



### 2014年度の講師育成事業

| コース名      | 実施期間         | 実施場所                               | 参加者数  |
|-----------|--------------|------------------------------------|---|
| ITC       | 原子炉工学ⅠⅡⅢ     | 平成26年8月25日～10月17日                  | 東海 18名  |
|           | 原子力/放射線緊急時対応 | 平成26年6月23日～8月1日                    | 東海 5名   |
|           | 環境放射能モニタリング  | 平成26年6月23日～8月1日                    | 東海 8名   |
| FTC       | ITCと同じ3コース   | 平成26年5月～平成27年3月<br>(各回1～2週間で合計22回) | 8カ国(タイ、インドネシア、ベトナム、バングラデシュ、マレーシア、フィリピン、カザフスタン、モンゴル) 各10～25名程度<br>(*日本人専門家派遣者数各2～4名) |
| 原子力技術セミナー | 原子力プラント安全    | 平成26年11月17日～12月12日                 | 敦賀 10名  |
|           | 原子力行政        | 平成26年10月20日～11月7日                  | 敦賀 10名  |
|           | 放射線基礎教育      | 平成26年11月10日～11月21日                 | 東海 15名  |
|           | 原子力施設立地      | 平成27年1月26日～1月30日                   | 敦賀 7名   |

## 講師育成研修「環境放射能モニタリング・原子力/放射線緊急時対応コース」～福島県において放射線測定・サンプリングを実施～

今年で4回目となる実習を福島県において実施しました。研修生たちは長期に亘る研修の中でチームワークが培われたのか、非常に和やかな雰囲気で作業をこなしました。研修は予定通り2時間程度で終了し、その後、未だに津波の傷跡が残るJR富岡駅を見学しました。研修生たちは、家屋の中に津波で流された車がはまっている様子などを目の当たりにして、自然災害の恐ろしさを実感していたようでした。

- 実習日:平成26年7月14日(月)
- 実習場所:福島県楢葉町の休耕田(福島第一原発から南へ約15km)
- 参加人数:研修生13名+教官7名
- 実習内容:「空間線量率の測定」、「土壌・草および水の試料採取」、「空気サンプルの採取」
- テレビ・新聞報道:NHK福島、福島中央テレビ、福島民報、福島民友新聞社

本研修の様子は、NHKなどのローカルテレビ番組等で報道されました。また、インタビューを受けたバングラデシュやマレーシアからの研修生は、「福島に来るまでは、私ばかりでなく、多くの人が福島の放射線レベルは非常に高いものだと思っていましたが、福島に来て実際に測ってみると、0.2μSv/hとバングラデシュやマレーシアのバックグラウンドとほとんど同じレベルで、全然問題ないことが分かりました。このことを母国の人たちにも伝えたい。」と福島の現状の率直な感想を、取材していた報道記者に熱く訴えていました。



## フォローアップ研修～成功モデルとしてのバングラデシュ編～

バングラデシュ原子力委員会(BAEC)が運営主体となったFTCの成功例を紹介します。

- 研修名:「原子力/放射線緊急時対応コース」
- 研修期間:平成26年11月23日～12月4日
- 研修場所:サバル原子力研究所 研修センター
- 研修生:19名(BAECの関連組織5機関、消防署、ラジオ放送局)
- 研修内容:18の講義、6種類の実習、及び3つの原子力関連施設見学

研修参加者は、緊急時で初動対応が求められる消防署やラジオ放送局の職員の他、BAECからも将来期待の若手技術者が多数参加しました。今回のコースから2週間に研修期間を延長して講義と実習内容を更に充実化しました。特に6種類の実習をコースに組み込むことで参加者は緊急時対応の実践的な技術を体験し取得することが出来ました。特に今回の研修生は普段、放射線防護着を扱う機会がなく、今回

初めて、バングラデシュ独特の暑くて湿度の高い気候の中で防護着を装着する過酷さと汚染を拡散させない方法などを体験しました。講義でも積極的に議論を交わし、緊急時における対応の知識と技術を向上させました。平成26年度には、このようなフォローアップ研修をITC参加8カ国において計22コース開催しましたが、バングラデシュは参加者数が最も多く、熱心に取り組んでいる成功例の一つです。



## 原子力技術セミナー「放射線基礎教育コース」

～茨城県東海村にて、アジア研修生と日本の高校生による共同実習を実施～

研修生からの「日本の放射線教育の現場を見てみたい!」という要望を受け、今回、水戸二高スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の協力により、初めて実現しました。

- 実習日:平成26年11月12日(水)
- 実習場所:原子力科学研究所 原子力人材育成センター
- 参加者:研修生15名、水戸二高SSH 35名
- 実習内容:放射線計測器を用いた放射線測定実験

アジア各国の政府機関や大学において教育や広報に携わる研修生は「将来自国で放射線や原子力に関する知識の普及を進める上で貴重な経験になった」と感想を述べていました。また、水戸二高の先生方や生徒からも「放射線測定実習と同時に国際交流の機会が持て、大変有意義な時間で

あった」とご意見を頂きました。アジアからの研修生と日本の高校生と一緒に、放射線の性質や医療面での利用等の基礎知識の習得と同時に国際交流をも楽しめた一石二鳥の研修となりました。



## 原子力技術セミナー ～福井県敦賀市にて開催～

### 「原子力プラント安全コース」

- 研修期間:平成26年11月17日～12月12日
- 研修場所:若狭湾エネルギー研究センター福井県国際原子力人材育成センター(敦賀)
- 研修生:アジア9か国から10名(放射線利用技術や原子力基盤技術等の研究開発及び発電炉や研究炉の運転等に携わる技術者や研究者)
- 研修内容:日本の原子炉施設等の安全技術に焦点を当てた講義と数々の原子力関連施設見学等を行う。また、母国の原子力エネルギーに関連する現状を踏まえた討論会を実施し、体系的・効率的かつ実践的に学ぶことを目指した内容となっています。

### 「原子力行政コース」

- 研修期間:平成26年10月20日～11月7日
- 研修場所:若狭湾エネルギー研究センター福井県国際原子力人材育成センター(敦賀)
- 研修生:アジア7か国から10名(原子力行政に携わる行政官等)
- 研修内容:放射線利用技術や原子力基盤技術等に関する行政の管理・運営に必要な幅広い内容の講義や防災、環境監視、放射線利用等の原子力関係施設等の見学を実施し、原子力安全や原子力防災等の地域行政として取り組んできた課題についても学ぶ内容となっています。

### 「原子力施設立地コース」

- 研修期間:平成27年1月26日～1月30日
- 研修場所:若狭湾エネルギー研究センター福井県国際原子力人材育成センター(敦賀)
- 研修生:アジア7か国から7名(原子力規制や広報に携わる行政官・技術者等)
- 研修内容:原子力施設立地に係る法律、審査事項や公衆に対する広報、リスクコミュニケーションに関する講義及び関連施設の見学を実施し、日本の原子力関連施設等立地経験を伝えることで、母国での課題解決に参考となる内容となっています。



## INTERVIEW [海外インタビュー]

### ～インドネシア原子力庁 ヘンドリアント 教育研修センター長 に聞く～

第1回講師育成研修事業ニュースレターでは、インドネシア原子力庁教育研修センター長(2014年10月当時)のヘンドリアント氏にインタビューしました。ヘンドリアント氏は講師育成研修の開始初期に研修生として来日され、帰国後にはご自身の研修経験を活かして、長くインドネシアでの原子力人材育成活動に携わられています。現在はインドネシア原子力規制庁(BAPETEN)の役員をされています。

#### 1.日本での研修に参加された体験と感想をお聞かせください。

平成12年に日本で開催された約2ヵ月間の講師育成研修に参加しました。当時の研修プログラムは現在のものとは異なり、私自身に必要なプログラムが設計され、オーダーメイド研修のようでした。現在の研修と比較すると、改善点もいくつかありましたが、もっと有益な点もたくさんありました。

研修中は、実務的な事を学べる素晴らしい機会に恵まれ、特に原子力に関わる研修で行われる実習の開発や、また、実際にJAEAがどのように原子力の研究室を運営しているか、更にどのように研究・研修活動を運営しているか等広く体験することができました。

2ヵ月間という長期滞在のおかげで、自由時間を利用し、日本人の生活様式にも触れることが出来ました。例えば、日本人の同僚と一緒に様々な場所に出かけたり、一緒にテニスを楽しんだりしました。週末には、一人で京都周辺を訪れ、富士山ではハイキングもしました。また、私自身が計測の専門

家ということもあり、秋葉原での探検は特に有意義でした。研修期間中は原子力に関わる知識やスキルだけではなく、その他多くの事を学ぶことができました。

#### 2.ご自身のこれまでのキャリアアップについてお聞かせください。日本での研修経験はどのように役立ちましたか？

研修参加直後に、教育研修センター・研修研究室の室長に任命されました。日本での経験は、私の職務と責任を果たす上で大いに役立ちました。この間、マネジャーそして講師としての2つの役割を果たしました。

その後、プログラムディビジョン長、最終的には教育研修センター長に昇進し、運営管理の職に就いています。おそらく、日本で得た技術的な経験はそれほど現在の職務に関連はしていないかもしれませんが、ソフトスキルは今なお私の仕事に対する考え方に大きく影響しています。

#### 3.インドネシアでの人材育成の方針についてお聞かせください。講師育成事業はインドネシアの原子力人材育成にどのように貢献していますか？

われわれの人材育成方針は、原子力分野で働くすべての職員が一定レベルの能力を身に付けることです。一定レベルの能力を得るには、それぞれに特化した分野の教育と研修が必要となります。

日本の講師育成研修の方法、つまり、日本での講師育成研修(ITC)と各国でのフォローアップ研修(FTC)を通して知識とスキルを伝達させる方法は、講師の育成と研修教材の作成において、大変効果的で生産性の高い手法だと思います。この方法で3～4年間、特定分野の研修を続けることによって、私たちは自分自身の手で研修を開催することが出来るようになります。もちろん、私たちの国の目的により合致するよう改良も加えます。

私たちは既にITC-FTCの講師育成プログラムに10年以上参加しています。もともと以前は講師育成プログラムの枠組みとして開催していた研修ですが、既に多くの研修が自立化し、現在ではたくさんの研修コースを私たち独自に続けて開催しております。

#### 4.インドネシアの将来を担う若手職員には何を期待しますか？

現在BATANでは、人材の高齢化という問題に直面しています。ベテランと若手の間には年齢はもちろん、経験、能力に大きな差があり、若い世代には真剣に自らの能力向上に取り

組むよう指導しています。彼らには技術的な面だけでなく、実務やソフト面の能力向上にも努めてもらいたいです。

日本は先進国として、研修・ワークショップ・セミナーへの参加機会をインドネシアの若い人材に多く与えており、我々はこれらの機会を最大限に活かしていかなければならないと思っております。

#### 5.将来の日本へ何を期待しますか？

特に原子力分野において、日本はインドネシアの支援国であり、これまで日本側が行ってきた我が国への数多くの人材育成支援活動に対して、感謝を申し上げるとともに、現在まで築き上げてきた両国の協力体制が維持・強化され、相互利益に繋がることを期待しております。

ありがとうございました。





Sawasdee ka!



**Dr. Piyatida Trinuruk**  
 キングモンクット工科大学トンプリ校  
 2014年度 原子炉工学コースII



以前よりタイでは、原子力発電所建設が国家電力開発計画の中に盛り込まれて来ました。しかし、原子炉工学に関わる人材育成活動はかなり限定的でスピード感も欠けるものでした。特に不安定な政治状況やパブリックアクセプタンスの問題から、原子力発電分野においてはその傾向が顕著です。私はキングモンクット工科大学トンプリ校(KMUTT)で講師を務めていますが、「原子力技術」を選択科目としてカリキュラムに加えるなど原子力工学知識の普及へ貢献し続けたいです。研修参加前に期待していたことは、日本での研修を通じて自身の知識・経験を深め、帰国後にそれらを学生達へ伝える事でした。しかし、講師育成研修は私の期待をはるかに超えるもので、幅広く詳細な内容・理論の講義、興味深く、工夫された実験や実習にはとても驚かされました。また、講義、演習、実験、施設見学の内容は完璧で、全ての講師は講義後も質疑に答えるなど、彼らの熟知された知識を如何に研修生へ伝えるか努力されていました。また、ITCはただ単に学術的な経験を提供するだけでなく、グローバルで友好的な素晴らしいネットワーク作りの機会も与えてくれます。8週間の間、他の研修生やスタッフの方々と自らの体験について語ったり、グループワークを通して多くの時間を共に過ごし良い思い出を作ることができました。時が経つのは早いですが、この思い出は、未だに私の心に残っていますし、ITCは本当に素晴らしい研修であると思っています。最後に、このような素晴らしい機会を与えてくれたタイ原子力技術研究所(TINT)とKMUTT、またJAEAスタッフの努力と素晴らしい研修運営に、心から感謝申し上げます。

Kopkhun ka!



**コラム**  
 ちょっと一息

各国の研修生から、意外と知られていないお勧めの現地料理についてご紹介します。



「タイ」

“トムカーガイ”。世界3大スープの一つトムヤムクンより美味。チキンをココナツミルクやレモングラス等の香草で煮込んだスープ。チェンマイ伝統のカオソイガイ(カレー風ヌードル)と共に勧め。



**Mr. Battulga Javkhlan**  
 モンゴル原子力庁(NEA)  
 2013年度 放射線基礎教育コース



Sain baina uu!



自然と人類  
 私たちは亡くなれば土に埋葬されます。しかし、しばらくすると生物によって自然へ帰ります。これは終わりのない大自然の循環の最たる例です。私たちを取り巻く全てのものが、その誕生から自然界の一部として組み込まれ、互いに無くしてはならぬものになっていると私は信じています。また、「自然と人類とはまるで母子の絆のようなものである」という言葉もあります。日本を訪れた時、発展、近代化された都市に驚きましたが、それよりも息をのむ自然風景にたいへん感動しました。今でも、その時の新鮮な空気の匂いや緑の景観を思い出します。個人的には、現代はどちらかと言うと、ハイテクノロジーや都市開発に重きを置き、自然安全をおろそかにし、環境汚染を招いているのではないかと思います。一方、常に環境に優しい高度な技術を生み出し、手つかずの自然安全に努めている日本を私は目標にしています。未来世代の為に環境を守るという目標に向かって世界は一つになるべきだと思います。

Bayarlalaa!



**Dr. Nguyen Tuan Khai**  
 ベトナム原子力研究所(VINATOM)  
 2013年度 原子炉工学コースI



Xin chào!



2009年11月、ベトナムでは国内初となる二つの原子力発電プロジェクト(ニントゥアン)が国会で承認され、海外パートナーとしてロシアと日本が選択されました。2010年8月には人材育成に関わるマスタープランが首相によって承認され、現在我が国では海外パートナー・国際組織と連携を図り、積極的に人材育成に取り組んでおります。例えば、ベトナム電力公社(EVN)は、国際原子力開発株式会社(JINED)と東海大学の協力を得て発電所の主要メンバー15名に対する研修を行いました。原子力人材育成に関わる国家運営委員会は、教育研修省を指導して原子力分野の学部・学科を有する五つの大学で研修計画を実行しています。また、ベトナム科学技術省は職員や関係者の能力向上を目的に、国際関連機関と連携し、定期的に研修を開催しています。

パートナーである日本は、日本国内の研究所・大学・研修センターで行われる短・長期研修プログラムを通して、ベトナム国内の人材育成に貢献してくれています。原子力技術・原子炉工学に関わる人材育成ネットワーク設立、講師育成研修(ITC)、フォローアップ研修など、JAEAの原子力人材育成センターが行ってきたアジア各国に対しての画期的な協力支援が成果を上げている事は言うまでもありません。

高度な人材を確保するため、国家予算と海外支援のもと、VINATOMは原子力エネルギー専門家養成プラン(NEST)を提唱しています。今後数年間、日本が博士課程奨学金、また博士研究員として働く機会をベトナム人学生・研究者に増やして下さる事を願っています。これらはNESTプランの推進に大きく貢献することでしょう。

Xin cảm ơn!



「モンゴル」

“クーシュール”。特大の揚げ餃子。家庭やお店によって具や作り方が多様。あと忘れていけないのは“モンゴル鍋”。モンゴル独特の薬膳スープは絶品。



「ベトナム」

ハノイで有名な“ブンチャー”。これでもかという量の米麺&揚げ春巻き&ハーブ野菜と絶妙のスープのミックされたヌードル。ぜひ屋台でお試しを。



**Mr. Berke Sayin & Mr. Nureddin Murat KAZANÇ**  
 トルコ原子力庁 (TAEK)  
 2014年度 原子力行政コース



トルコ原子力庁(TAEK)での人材育成プロジェクトの主な活動目的は、IAEAからの助言や、規制・運用で実績のある関係国との情報交換を通して、多目的原子炉の許認可に携わるTAEKスタッフの能力強化を図る事です。従って、日本とトルコの二国間協力はTAEKにとってさらに有益となり、経験の共有はますます重要になってきます。最後に私たちを明るく迎えてくれた日本人スタッフに感謝を致します。また、日本の魅力あふれる都市を訪れた事は忘れられません。機会があればもう一度、日本を訪れたいと思います。(Mr. Berke SAYIN)

同僚と一緒に3週間、日本の敦賀に滞在しました。今回の研修参加は私にとって最も思い出深い旅となりました。美しい自然、魅力的な都市、高度な技術、安全文化はもちろん、何よりも日本人の素晴らしさに感動しました。日本と共に世界はもっともっと素晴らしくなると思います。今すぐにでも、また日本を訪れたいです。(Mr. Nureddin Murat KAZANÇ)



Merhaba!



Tesekkür ederim!



**Mr. R. M. Malinda Prasanna Ranaweera**  
 スリランカ原子力庁(AEA)  
 2009年度原子力プラント安全コース &  
 2011年度原子力行政コース



Ayubowan!



私は2度原子力技術セミナーに参加する機会に恵まれました。2009年原子力プラント安全コース(敦賀)と2011年原子力行政コース(東海)です。原子力科学技術の平和利用という観点から、両コースとも私のキャリアに必要な知識を深めるのに大変役に立ちました。興味深いことに、この二つのコースに福島事故前後の両方の時期に参加することができました。事故前の日本に対しては、原子力産業をもとに経済成長戦略を進めているという印象でした。原子力技術を利用した新幹線で旅行した時は、これらは日本人にとって誇り高さ成果なのだろうと感じました。

研修では、発電所を含め多くの原子力施設を訪れ、また、原子力エネルギーの安全性に関わる多くの講義を受けました。各国からの参加者と共に研修を無事終了することができ、また、京都や大阪の歴史的遺産、魅力的な文化に触れ、充実した日本滞在となりました。



Sthuthi!



**Mr. Mohammad Ashraful Hoque**  
 バングラデシュ原子力委員会(BAEC)  
 2013年度 原子力/放射線緊急時対応コース



2013年7月11日から8月21日まで、ITC原子力/放射線緊急時対応コースに参加しました。日本から帰国後、11月17日~21日の日程でFTCを開催しました。研修生は28名で、ITC参加者3名、招待講師1名、日本側派遣者2名で講義・演習を担当しました。2014年の合同運営委員会で今年度の研修期間が1週間から2週間へ延長することが合意され、それをもとに11月23日から12月4日までの2週間、19名の研修生を迎えてFTCを開催しました。本研修にはITC参加者4名が携わりました。日本政府とJAEAの支援のもと、バングラデシュは2012年から3つのFTCプログラムを開催することができました。この場を借りて、日本政府に対して感謝を申し上げます。これからも引き続き支援くださることを望んでおります。短い研修期間でしたが、滞在中は日本の生活様式や文化を堪能し、日本が大好きになりました。特に、様々な場所で見られた日本人のおもてなしや、親切で友好的な態度に感激しました。



Assalam  
 alaikum!



Donnobaat!

Selamat pagi!



**Dr. Roziq Himawan**  
 インドネシア原子力庁(BATAN)  
 2011年度 原子炉工学コースII



私はインドネシア原子力庁(BATAN)の原子炉技術・安全センターで研究員をしています。主な研究分野は「材料強度」で、原発の構造健全性の研究や研究炉運転部門の稼働中検査の支援を行っています。BATAN教育研修センターで原子炉工学コースの講師もしています。材料工学や構造力学、非破壊検査コースでは超音波法について教えています。来年は赤外線サーモグラフィ技術に関する研修を立ち上げ予定です。このように、講師育成研修を通して得られた知識の普及に貢献でき、大変うれしく思っています。今後、JAEAとBATAN間の知識共有システムが開発され、より高度な原子炉工学コースが開催されることを期待しています。今後もBATAN職員の更なる能力向上を目指してまいります。日本滞在中は日本の文化に触れることができ、観光名所を訪れるなど、とても有意義な時間を過ごすことができました。講師育成研修の関係者のホスピタリティとご支援に感謝しています。



Terima kasih!



「トルコ」

スウィーツ天国トルコで最もお勧めなお菓子“バクラヴァ”。甘いパイ系のお菓子。何層にも重ねて焼かれたパイ生地をお砂糖、バター、シナモンの濃厚シロップに漬け込んだお菓子。昼食後、コーヒー占いに興じつつバクラヴァを楽しむのがトルコの典型的スタイル。



「スリランカ」

カレーとナン、ライスの種類の多さは想像以上。慶事で出される“キリパット”というココナツミルクで炊いて固めたご飯は珍しい食感でお勧め。



「バングラデシュ」

意外と知られていないフルーツ大国。National fruitのジャックフルーツとマンゴーの品質は世界一。スパイスの効いたカレーの美味しさは抜群。



「インドネシア」

“マサカンパダン”インドネシア西部パダン地方の料理。席に着くなりテーブル一杯に小皿料理が並べられ、好きな料理を自由に取る。“アボカドジュース”と共にインドネシアでのお勧め。



**Ms. Milts Olga**  
 核物理研究所(アルマティ:INP)  
 2013年度 環境放射能モニタリングコース



*sälemetsiz be!*

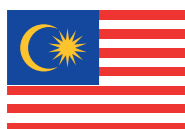


講師育成研修に参加し、カザフスタンに帰国後、同僚に対して講義を行いました。例えば、「アルファ・ベータ・ガンマ線スペクトロメトリと計測機器の基礎」の講義です。また、研修で頂いた英語の講義資料を現地語に翻訳もしました。今年開催されたFTCにも講師として参加し、「HPGeカウンターを用いた環境試料のガンマ線スペクトロメトリ分析」の講義・実習を担当しました。

講師としての新たな知識とスキルの向上を目指してITCに参加しましたが、日本での講義はレベルが高く、実習もとても興味深いものが多かったです。また講師陣はみな素晴らしい方ばかりでした。

参加したITCでは良い思い出ばかりです。福島でのフィールド実習や東京での施設見学は特に記憶に残るものでした。研修生はみな社会的で、親切で、賢いばかりで、研修を通して、新たな知識を得るだけでなく、新たな友人も得ることができました。日本は本当にAmazingな国でした!

*Raxmet!*



**Dr. Khaidzir Hamzah**  
 マレーシア工科大学  
 2013年度 原子炉工学コースⅢ



*Selamat pagi!*



私はマレー半島南部にあるマレーシア工科大学で講師をしています。現在は原子炉工学アカデミックプログラムの学部長も務めています。主に本プログラムの運営、カリキュラムの検討などを行い、指導者に適した人材の育成を進めています。学年は第3学年まであり、最高学年の31名は2016年に卒業予定です。今は、就職に有利になるような資格を取得できるコース(非破壊検査と放射線防護)を開催するなど、卒業後の彼ら就職支援に力を注いでいます。また、大学では学生達にソフトスキル向上を促す研修に参加することを必須としています。

ITC参加前は、何を期待すべきか分かりませんでした。メディアを通して知る日本は、「先進国」「勤勉」ということぐらいでした。成田空港から東海へ向かうバスでは、息をのむほどの美しい風景や親切で思いやりのある人々など、それまでとは違う印象の日本を見ることができました。

ITCに関わる全てのスタッフは我々研修生をよく面倒見てくださり、原子炉工学に関する知識を伝えようと一生懸命でした。施設見学が非常に良かったです。ただ、東京滞りがもう少し長ければと思いました。ITCを通して得られた知識は学生を教える立場として大変役に立ち、大学でのカリキュラムを改善するヒントにもなりました。今後もITCが継続されることを期待し、最後に、原子炉工学分野を学ぶ機会と日本を良く知るチャンスを下さったJAEAに感謝いたします。

*Terima kasih!*



**Ms. Rosario R. Encabo**  
 フィリピン原子力研究所(PNRI)  
 2011年 環境放射能モニタリングコース



*Magandang hapon!*



マニラから成田空港に降りたった2011年10月10日、私は感激と同時に地震への恐怖を感じていました。なぜなら、その時、あのマグニチュード9の大震災が起こってから、まだ7ヶ月しか経っていなかったからです。これから1ヶ月半過ごす場所を空港から茨城までのバスの中から垣間見る事が出来ました。外に見える景色は、テレビでしか見たことのない震災がもたらした悲惨な光景でした。そして「この被災地で1か月半、新たな経験を積むのだ」と実感しました。

ITCを通して、サンプリング、前処理、環境試料分析、in-situガンマ線計測の知識をさらに深めることができました。また、原発事故の影響を考慮した環境放射能モニタリングの講義、フィールド実習を受けました。最も有意義だったのが、東京への施設見学と福島での放射線サーベイ・環境試料採取です。

日本滞在中は、数えられない程の余震、聞き慣れない日本語、異なる食文化、寒冷な気候、自転車の運転など、数多くの新しい経験をしましたが、自然と慣れていくことができました。

私のキャリアにとって新たなステップとなったこの研修に参加出来たことを本当にありがたく思っています。また、今年は招待講師として日本のITCでも教えました。最後に、この機会を通して、実りある研修を実現させるために全力を尽くされている原子力人材育成センターの職員の方々に感謝を申し上げます。

*Salamat po!*



「カザフスタン」

「シャシュリク」。特製タレに漬けたバーベキュー。現地では馬肉が最高級とか。日本人にはラム肉がお勧め。



「マレーシア」

「ABC」。マレーシアの伝統的スイーツ。フルーツ、豆類、アイスクリーム、タピオカ等、あらゆるものが混ぜられた「かき氷風」お菓子。フィリピンで有名な「ハロハロ」に似る。

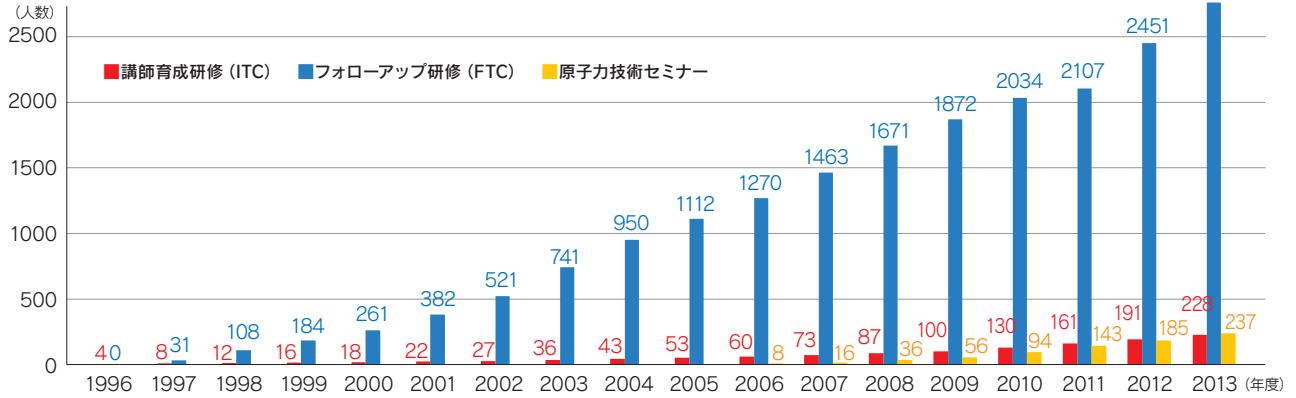


「フィリピン」

「カレカレ」。カレーではありません。ピーナッツソース風味のスープで牛肉、野菜を煮込んだスープ。塩辛い海老ペーストが欠かせない。



## 講師育成研修事業 累積研修生数



## 海外協力機関 (2014年度講師育成事業への参加実績国)



|         |                 |   |                    |
|---------|-----------------|---|--------------------|
| バングラデシュ | バングラデシュ原子力委員会   | Bangladesh Atomic Energy Commission                         | (BAEC)             |
| インドネシア  | インドネシア原子力庁      | National Nuclear Energy Agency                              | (BATAN)            |
| カザフスタン  | カザフスタン国立原子力センター | RSE "National Nuclear Centre of the Republic of Kazakhstan" | (RSE NNC RK)       |
|         | 核物理研究所          | Institute of Nuclear Physics                                | (INP)              |
| マレーシア   | マレーシア原子力庁       | Malaysian Nuclear Agency                                    | (Nuclear Malaysia) |
| モンゴル    | モンゴル原子力庁        | Nuclear Energy Agency                                       | (NEA)              |
| フィリピン   | フィリピン原子力研究所     | Philippines Nuclear Research Institute                      | (PNRI)             |
| タイ      | タイ原子力技術研究所      | Thailand Institute of Nuclear Technology                    | (TINT)             |
| ベトナム    | ベトナム原子力研究所      | Vietnam Atomic Energy Institute                             | (VINATOM)          |
| スリランカ   | スリランカ原子力庁       | Atomic Energy Authority                                     | (AEA)              |
| トルコ     | トルコ原子力庁         | Turkish Atomic Energy Authority                             | (TAEK)             |



### センター長からのメッセージ



独立行政法人  
日本原子力研究開発機構  
原子力人材育成センター長 村上博幸

本事業が開始されてから約20年、多くのアジア地域の研修生が我が国を訪れて原子力に関する多くの知識を学んできました。それらの人たちは自国へ帰ってから学んだ知識をさらに多くの自国人に伝えてきました。これらの活動がアジア地域における原子力の発展に寄与していることを大変うれしく思っています。今般、この極めて有意義な活動を広く皆さんに知っていただくため、ニュースレターを発行することとしました。多くの方々に読んでいただければ幸いです。



### 編集後記(事務局より)

陽春の候、各地から桜の便りが聞かれる季節を迎えました。ニュースレター第1号はいかがでしたでしょうか。海外の人にも面白く手に取っていただければ幸いです。事務局では講師育成事業を通じてアジア各国の人々と日々接しています。異文化で生まれ育った彼らの、時に突飛な発想や行動に頭を抱えることも多いですが、研修を終え、最高の笑顔で「日本大好き!!」と言って帰国する彼らを見送ることが最大の喜びです。近年、訪日外国人数も過去最高を更新するなど日本も観光立国を目指して“おもてなしUP気運”が高まっています。事務局では微力ながら今後も本研修を通じてアジア諸国の原子力分野の研究開発推進、国際交流の促進に貢献していきたいと思っております。

Konnichiwa!



独立行政法人  
日本原子力研究開発機構  
Japan Atomic Energy Agency

原子力人材育成センター 国際原子力人材育成課  
〒319-1195 茨城県那珂郡東海村大字白方白根2番地4  
TEL:029-282-6748 FAX:029-282-6543 <http://nutec.jaea.go.jp>